

## J-PARC 事故 労組への説明会、 もんじゅ点検漏れ問題 労組への説明会開催される。

原研労組は、原子力機構に対して、J-PARC 事故、もんじゅの点検漏れ問題、それぞれ説明会を要請していました。6月6日午後、それぞれの説明会が行われました。もんじゅについては、テレビ会議での説明会でした。説明会を経て、いくつかのことについて、理解が深まりました。もんじゅについては後日報告します。

### \*\* J-PARC の被ばく事故に関して \*\*

先のあゆみ速報で、疑問を紹介しましたが、そのいくつかについては回答を得ました。それで見えたことは、ハドロン実験施設を管理していた高エネルギー加速器研究機構 (KEK) の放射線管理センスと原子力機構 (JAEA) ・原科研の標準的なセンスとの大きな隔たりです。

#### わかったこと1： ハドロン実験施設の区画管理

一体負圧管理はどうなっていたのか？というのはいくつかの疑問です。放射能が空气中に生じる可能性がある区画は、隙間や出入り口から放射能が外に漏れないようにするため、吸排気を管理して、室内の気圧を外よりも低くするのが普通です。ところがこの施設ではその負圧が担保されるようになっていませんでした。放射能汚染が起こりうる想定しているビームライン周辺と、そのほかの空間とは、大量の遮蔽体で分けられています。遮蔽体は並べて積み上げただけなので、多くの隙間があることが想像できます。ビニールシートをかけてあるとの説明がありましたが、シート間の重ね幅や、密封処理について明確な方針を持った処置はしてはいないとの説明でした。

#### わかったこと2： 金のターゲットの周辺の密閉

加速器のある電源の動作不良で、本来2秒間かけてビームを取り出すはずのものを約5ミリ秒で取り出してしまい、そのため、金のターゲットを異常に加熱し、事故になったということです。加速器でターゲットと言え、真空チェンバーに入っている場合が多いのですが、今回の事故の金ターゲットは、密封した箱の中ではなく空気中にありました。将来ビームパワーを強化する時は、密閉されたターゲットを使うつもりだったとのことですが、今回はビームパワーが大きくないとして、解放された装置でした。装置そのものは、ビームラインの区画にあり遮蔽されていますが、上に述べたように密閉状態ではありませんでした。それで放射能が漏れたようです。

## 線量率の上昇で警報が出ないのか？という疑問について

事故時、人が大勢いる実験ホールの線量率が  $4.0 \mu\text{Sv/h}$  を超える高線量率になりましたが、加速器のトラブル診断はするものの、実験者への退避指示などをしませんでした。放射線モニターの警報はどうなっていたのかというのが多くの人の疑問でした。説明会では、高線量アラームは出なかったとのことでした。他から得た情報では、アラームはもっとずっと高いレベルに設定されていたとのことでした。「できるだけ、被ばくを抑えよう」というよりは、「法の規制範囲内なら良い」というに近い感覚です。

通常の線量率は、加速器を動かすと約  $0.4 \mu\text{Sv/h}$  だったそうです。

## 高エネルギー加速器研究機構(KEK)に大きな責任がある。

今回の事故では、JAEA、特に原科研の職員たちには、理解できないことが重なっています。そこには KEK と JAEA の文化の違いが顕著としてあります。KEK の方々から見れば、今回の事故は大した問題ではないのかもしれませんが、原科研の敷地内で起き、そのため原子力機構は「安全文化の劣化」などといわれています。原子力機構はともかく、KEK については、「劣化などしておらず、昔からこんな感覚だった」というのが、感想です。つくばの KEK の敷地の中だったら、KEK だけの責任ですが、原子力機構の敷地内で起きれば、原子力機構が責任を問われます。原子力機構にも責任があり、外部には謝罪もしなければなりません。KEK の方々は、周辺の住民、規制機関、そして原子力機構にどれだけ迷惑をかけたのか理解しているのでしょうか。大変疑問です。

## 文化の異なる組織間の共同事業は難しい

J-PARC よりはずっと小規模でしたが、原科研タンデム加速器でも、以前外部機関の加速器を持ち込む共同研究がありました。その計画のなかでは、「安全系のルールを緩めてほしい」という、相手側のしつこい要請を明確にはねのけ、原研タンデムで作ってきた方針を守ったという経験があります。2つの機関それぞれに歴史を持っており、それぞれ言い分がありました。しかし、装置が置かれるのは、こちらの敷地内であり、何かあると真っ先に責任を問われるのは、我々です。文化の違う組織間の共同事業では、計画段階から、こういうことに覚悟をきめて、調整に臨まなければなりません。その点 J-PARC では失敗したということなのでしょうか？

## 世界一よりも、だれもが納得する安全を!

職員向けの説明会で、説明者は「J-PARC は世界一を目指しているのだから、安全も世界一を目指したい」と述べていました。しかし、安全に一番を目指す競争は必要ありません。みんなが納得する基準の安全が確保されればよいのです。そのためには、批判的な意見も聞き、いろいろなことに対してもっと慎重に対処することが必要です。

## 第 65 期労組役員選挙立候補者

中央執行委員（定数10名）

届出	氏名	所属
1	小松崎 賢治	核サ研分会
2	津村 貴史	JRR-3分会
3	花島 進	核物理分会
4	小沼 勇	放管1・2分会
5	湊 太志	先端基礎分会
6	熊田 政弘	化学部分会
7		

中央委員（東京・東海・関西選挙区、定数8名）

届出	氏名	所属
1	半澤 有希子	化学部分会
2	椎名 定	核サ研分会
3	蔵光 泰	核サ研分会
4	坂本 裕	バックエンド分会
5	宇田川 誠	燃安・ホット試験・NSRR
6	遊津 拓洋	核物理分会
7		
8		

中央委員（大洗選挙区、定数4名）

届出	氏名	所属
1	菅谷 直人	原子炉分会
2	高橋 澄	照射分会
3	山崎 和則	HT分会
4	尾曾 智重	管理分会

中央委員（高崎選挙区、定数1名）

届出	氏名	所属
1	倉島 俊	高崎支部

中央委員（那珂選挙区、定数1名）

1	川松 頼光	管理分会
---	-------	------

監査委員（東京・東海・関西選挙区、定数1名）

届出	氏名	所属
1	相沢 雅夫	燃安・ホット試験・NSRR 分会

監査委員（高崎・大洗・那珂選挙区、定数1名）

届出	氏名	所属
1	川本 大樹	HT分会

第95期大洗支部執行委員（定数4名）

届出	氏名	所属
1	荒木 大輔	原子炉分会
2	武藤 保信	管理分会
3	島崎 洋祐	HT 分会
4	佐藤 章宏	管理分会

第97期高崎支部執行委員（定数4名）

届出	氏名	所属
1	杉本 雅樹	高崎支部
2	山田 圭介	高崎支部
3	石坂 知久	高崎支部

第52期那珂支部執行委員（定数3名）

届出	氏名	所属
1	三代 康彦	JT-60トカマク分会
2	寺門 正之	JT-60加熱分会

### ☆第 65 期労組役員選挙

東海地区の投票日

不在者投票：

6月17日（月）～6月18日（火） 12時～13時、 17時30分～18時30分

本投票：

6月19日（水）～6月21日（金） 10時～18時30分

場所\* 原子力科学研究所構内 労組事務所